

平成28年度第3回 旭市学校のあり方検討委員会会議録

1 期 日 平成29年2月16日(木) 開会 午後6時30分
閉会 午後8時00分

2 場 所 海上公民館1階第一研修室

3 出席者

会	長	伊藤	啓子
副	長	齊藤	勝弘
委	員	岩井	憲一
委	員	平野	一男
委	員	石橋	敬弘
委	員	加瀬	栄一
委	員	嶋田	太郎左工門
委	員	下埜	實
委	員	島田	昌信
委	員	佐瀬	史恵
委	員	高野	英之
委	員	山角	健一
委	員	向後	依明
委	員	平野	進
委	員	小沼	加代
委	員	小関	三枝子

教 育 長	彗田	哲雄
庶 務 課 長	角田	和夫
学 校 教 育 課 長	石見	孝男
庶 務 課 副 課 長	多田	英子
学 校 教 育 課 副 課 長	仲條	義治
学 校 教 育 課 主 幹	橋村	昌樹
学 校 教 育 課 主 幹	鈴木	益実
庶 務 課 施 設 班 副 主 幹	来栖	慎一
庶 務 課 施 設 班 主 査	亘	隆男

4 開 会

・伊藤会長

皆さんこんばんは。本日はご多用な中、お集まりいただきありがとうございます。それではただ今から第3回旭市学校のあり方検討委員会を開催させていただきます。はじめに、開会に当たり、教育長よりご挨拶をお願いします。

5 教育長あいさつ

皆さんこんばんは。開会に当たりまして一言ご挨拶を申し上げます。

朝晩まだまだ寒い日は続きますが、ここ2、3日は本当に暖かく過ごしやすいなと感じております。できましたらこのまま春が来ればと期待するところがありますが、そうはなかなかいかず、弥生三月までには、もう少し辛抱が必要ではないかと思っているところでございます。さて本日は、皆様方、公私共に大変お忙しい中、第3回目となります学校のあり方検討委員会にご出席をいただきまして大変ありがとうございます。そして、本日の会議が平成28年度最後の検討会議となっております。そこで今回は、第2回の検討会議の中で取り上げられました中学校の部活動の状況、そして免許外教科について、更には、学校の先生方は適正基準・適正規模をどのように考えているのかなどの質問がありましたので、市内小中学校の教職員を対象に、急遽ではありますがアンケート調査を実施したところでございます。その結果も出ておりますので、今日の会議の中で後ほどご紹介をさせていただきます。そして、その上で皆様方から将来の旭市の児童生徒にとってより良い学習環境や社会性を養うにはどのような学校規模が望ましいのか皆様方から率直なご意見を頂戴したいと考えておりますので、どうぞ忌憚のないところをお聞かせ願えればと思いますのでよろしくお願いいたします。また、委員の皆様にはこれまでの検討結果、そして本日の会議での検討内容を踏まえて旭市の小中学校の適正規模の考え方や方向性について合意を頂ければと考えておりますので、よろしくお願いいたします。それでは、本日の会議、これより始まりますが、どうぞご協力よろしくお願いいたします。

6 検討事項

・伊藤会長

ありがとうございました。本日の第3回の会議では3つの検討事項が予定されております。お手元の次第をご覧ください。次第の3に検討事項が書かれておりますが、確認したいと思います。検討事項の(1)近隣自治体の学校の適正規模の基準について、(2)中学校の適正規模について、中学校については、アイウと細かな項目ごとに説明がございます。それから(3)小学校の適正規模についてとなっております。第2回の会議では皆様から様々な意見が寄せられたわけですが、その中でも特に中学校についてのご意見が多かったように思います。本日はそういった訳で、まず中学校の適正規模の検討

を行いまして、追って小学校の検討をしていきたいと思います。それでは次第の3の(1)の近隣自治体の学校の適正規模の基準について、事務局より説明をお願いします。

・庶務課亘主査

それでは、近隣自治体の学校の適正規模の基準についてご説明します。お手元の資料の1ページをご覧ください。今回の会議では、学校の適正規模について検討していただく訳ですが、まず近隣自治体が考える適正規模について参考にご紹介をしたいと思います。近隣自治体で望ましい学校規模について、答申等により定めている自治体について資料を取りまとめました。

銚子市の小・中学校等再編検討委員会では、小学校・中学校ともに12から18学級を適正な学校規模としています。これは学校の小規模化に伴う課題や地域との関わり、さらには、中学校での教科担任制における教員配置や部活動などにも配慮し、適正な学校規模としています。

次に、山武市の学校のあり方検討委員会では、小学校においてはクラス替えが可能な学級数を確保することが望ましいことから12学級以上(一学年2学級以上)を望ましい学級数としています。中学校では国語・数学・社会・理科・英語の5教科に複数の教員配置が可能な学級数ということで9学級以上(一学年3学級以上)としています。

成田市の学校教育懇談会では、小学校は、クラス替えが可能な12学級から18学級、中学校については、教育活動において生徒の多様な希望に応えることが可能な12学級から18学級を適正規模としています。

匝瑳市の教育委員会で作成された匝瑳市における学校の統合計画〔第2次〕では、小学校のみで中学校については適正規模について明記されておりません。小学校については、学級編制替えができ、より多くの児童や教師との関わり合いが持てる一つの学年2学級から3学級、学校全体としては12学級から18学級の学校が、適正規模であると考えております。

香取市の教育委員会で策定された学校等適正配置計画実施プラン第一次改訂版では、小学校は、適正規模を各学年でクラス替えが可能な規模と捉えています。中学校では、適正規模を国と同じく一学年4から6学級と捉えています。

ここで、どの自治体についても言えるのが、小学校においてはクラス替えが可能な12学級以上としています。中学校については山武市、匝瑳市を除き12から18学級としています。主な理由としては、中学校での教科担任制における教員配置や部活動等に配慮した規模としています。以上となります。

・伊藤会長

ただ今、事務局から近隣自治体の学校の適正規模の基準について説明がありましたが、何かご質問はございませんか。確認しますと、小学校においてはクラス替えが可能な12学級以上、つまり一学年2学級以上が望ましいとする自

治体が多いということ、それから中学校では、教科担任制がきちんと確立されていることや部活動に配慮すると9学級以上、ないしは12から18学級が望ましいとする自治体が多かったということです。これらを参考にして頂きまして、これから説明を伺いながら本市における学校規模について考えていきたいと思いますが、ご質問はよろしいでしょうか。

それでは、中学校の適正規模から検討して参りますが、前回委員の皆様から頂いた意見の中で、現場の先生方から見た望ましい学校規模とはどうなのかという話がありました。そして臨時免許による授業がどのくらいあるのかというご質問もありました。また、中学校の部活動の現状がどうなっているのかというご意見もありました。この3つのことは、中学校の適正規模を検討して行く上でとても大事なことだと思いますので、事務局よりそれぞれご説明いただきたいと思います。それでは、次第の3. 検討事項の(2)中学校の適正規模についてのア 学校の適正規模に関するアンケート結果について、事務局より説明をお願いします。

・学校教育課橋村主幹（指導主事）

お手元のカラー刷りの資料をご覧ください。それでは学校の適正規模に関するアンケートについて、ご説明させていただきます。この調査は学校の適正規模について現場の教職員がどのような意見を持っているのかを集約する目的で実施しました。対象は旭市内の教職員全員で、小学校の回答率は89.5%、中学校は83.3%でした。

それでは、調査の結果についてご説明させていただきます。ここでは、中学校の教職員に実施したアンケートについて説明いたします。4ページをご覧ください。設問1から3は、中学校における適正な学校規模ということで一学年の適正な学級数について、中学校の教職員がどのように感じているのかを聞いてみました。なお中学校の標準学級数は、12から18学級とされております。これはここにも書かれておりますように、学校教育法施行規則第41条に示されているものでございます。そして設問2は、標準学級数ではない①②⑥を選んだ人達は、どんな理由を考えているのか。そして設問3は、標準学級数を選んだ方々がどのような意見に共感したのかということでもまとめておりますので順番に説明をいたします。

まずは、中学校の教職員が一学年の適正な学級数をどのように感じているかですが、一番多かったのは、一学年4学級で、全体の70%の教職員が適正だと感じていることがわかりました。一学年5学級、6学級の標準学級数となる選択肢を選んだ方も含めれば、全体の91%になります。

2学級、3学級、7学級以上を選択した方は、総勢で11名と少数となります。選択した理由は4ページの下に記載されているものとなります。

5ページをご覧ください。4学級から6学級の標準学級数を選んだ方々には、10の選択肢の中から特に共感する理由を3つ選んでいただきました。その結

果が記載されている表及びグラフとなります。多かつた理由は、「様々な人間関係に配慮した学級編制ができるから」、「一定の教職員数が確保され、バランスがとれた教職員配置（臨免指導等の解消）が実現するから」、「学級同士が切磋琢磨する環境を作ることができるから」この3つになります。2番目の理由の臨免指導等の解消については、この後、詳しく説明がありますが、学校規模が小さいと教職員数も少なくなるのは当然であり、そうなれば、様々な不都合が生じてきます。これは、教職員だけでなく生徒にとっても同様なのではないのでしょうか。この解消をするためにも、ある程度の学校規模である必要があり、それが一学年4学級程度の学校規模を選んだ理由となったものと考えられます。また、学級同士が切磋琢磨する環境とは、例えば、合唱コンクールのようなクラス対抗が可能な学校規模ということになりそうです。2クラスで勝敗を競っても少し盛り上がり欠けるといえることでしょうか。このような何らかの対抗戦だけでなく、普段の生活の中でも学級数が多いと自分の学級を強く意識しやすいのだと現場の先生方は言います。自分のクラスの特徴は運動ができること、自分のクラスの特徴は積極的な子が多いことなど、他の学級と比較することで結束を強めているということです。これも切磋琢磨と言えるのではないのでしょうか。

ここで中学校における学校規模について考察をさせていただきます。7ページをご覧ください。平成28年度の旭市の中学校の規模を掲載いたしました。第二中学校を除く4校は、標準学級数に満たないことがわかります。多くの教職員が現状より1から2学級多い一学年4学級程度を適正だと感じているということは、現状について、何らかの課題を感じているということだと推察いたします。

また、第二中学校は標準学級数を超える大規模校ですが、第二中学校の教職員だけに限ってみますと、他の4校とは少し趣が違っていました。そこでグラフを作成してみました。一学年4学級が過半数を超えてはいますが、5学級や6学級もかなりの割合を占めております。さすがに標準学級数を超える7学級以上を適正と感じている方はほとんどいませんでしたが、実際に一学年7から8学級の規模を経験した教職員が、大規模校の長所、短所を認識した上で、一学年4学級程度が適正だと感じているということは、非常に貴重な意見ではないかと考えております。いずれにしても、多くの中学校の教職員が一学年4学級程度の学校規模が適正だと考えていることがわかりました。

続いて、設問5、6の1学級の人数は、何人ぐらいが適正だと感じているかについてご説明します。結果は5、6ページに掲載されております。5ページの下表及びグラフをご覧ください。一番多かつたのは24から29人で、全体の74%を占めております。選択した理由については、6ページにまとめて掲載しております。様々な理由がありますが、要約すると教師の目が届きやすく、子ども達の人間関係の多様性が保障され、様々な活動を行うことができる規模、これが適正な学級の規模であり、そして中学校の先生方が感じた適正規

模、それが24人から29人だということになります。

ここでもう一度7ページをご覧ください。平成28年度の中学校規模を見てもみますと、多くの学校で1学級30人以上となっていることがわかります。つまり、この現在の規模だと教職員の多くが少し多いと感じていると捉えることができます。また7ページの下の方には、一学年の学級数の違いによる、1学級の人数の範囲となります。学級数が増えると1学級の最少ラインが上がってくるのがおわかりになるかと思います。多くの教職員が適正だと感じた一学年4学級を見てもみますと、最少のラインが28人ぐらいということがわかります。そこで1学級の適正な人数、そして一学年の適正な学級数、この2つの最大公約数のような形で見てみますと、先生方は、一学年は4学級が適正だと感じ、そして1学級の人数はその4学級の最少ラインである28人より少しだけ多い程度の人数が適正だと感じていると考察できます。

以上で、学校の適正規模に関するアンケートの中学校における結果についての説明を終わりにいたします。

・伊藤会長

中学校のアンケート結果についての説明をしていただきました。先生方が学級数はどのぐらいが望ましいと感じているのか。1学級の人数は何人程度が望ましいと感じているのかということの説明でした。皆さん、何かご質問はございますか。最後にまたご質問があればお伺いいたしますので、先に進んでもよろしいでしょうか。

それでは、検討事項の(2)のイ「公立小中義務教育学校定員配置基準」及び「中学校における免許外教科教授の状況」について、事務局より説明をお願いします。

・学校教育課鈴木主幹（管理主事）

それでは、お手元の資料の2ページをご覧ください。私の方から「公立小中義務教育学校定員配置基準」及び「中学校における免許外教科教授の状況」について説明させていただきます。

まず「公立小中義務教育学校定員配置基準」についてです。教員の定員配置基準では、各学校に校長、副校長、教頭のほか、学級編制基準に基づく標準学級に、1名の教員を配置し、さらに下表のとおり増置教員を配置することを原則としています。表1が小学校の配置基準、表2が中学校の配置基準となっております。

例を挙げて説明させていただきます。小学校では、通常学級6学級、特別支援学級2学級の場合、市内小学校のほとんどがこの形になりますが担任8人、増置教員1人の計9人となります。ですが通常学級12学級、特別支援学級2学級の場合は、担任14人、増置教員2人の計16人の配置となります。

中学校では、通常学級6学級、特別支援学級2学級の場合、学級担任8人、

増置教員5人の計13人となり、10学級以上で生徒指導担当が1人配置されます。そのため、通常学級8学級、特別支援学級2学級の場合は、学級担任は10人、増置教員が6人、生徒指導担当教員1人で、合計17人の配置となります。

また、小学校において各学年が単学級の場合、前回の検討委員会で説明させていただいた千葉県の学級編制の弾力的運用の上限である場合、弾力的運用とは、一年生で標準35人、二年生、三年生が弾力で35人、四年生から六年生が38人だった場合です。ちなみに三年生の弾力35人については、先日、新聞発表がありましたとおりに来年度からの実施となります。この場合、児童数219人で教員数9人となります。そこに各学年に1人ずつ増えた場合どうなるかということ、合計225人ですが、各学年2学級となります。そのため児童数6人の違いでも、教員数は16人になります。要するに単学級の場合と比較して7人教員が増えるということです。

中学校にも同様のことが言えますが、9学級になると教員数が15人になります。そうなりますと、主要5教科（国語・数学・理科・社会・英語）の担当教員を2人ずつ確保することが可能となります。

続きまして、中学校における免許外教科教授の状況についてです。旭市内の中学校において、教科担任不在、あるいは不足しているという理由で、免許外の教員による授業を実施している学校は、表3のようになっております。いずれの教員も、学校の都合で免許外の教科を指導している訳ではなく、専門教科の指導経験を踏まえ必要な教授能力を有していることが認められ、それを申請した上で許可が下りたものです。いわゆる臨時免許状という形で交付されております。傾向としては、学校規模が小さくなると免許外の教員による授業が必要になってくる場合があります。以上です。

・伊藤会長

ありがとうございました。生徒数が増えれば当然、学級数も増え、学級数がある程度確保されれば、教員数も確保されるということで、今のお話の中では児童数6人の違いで教職員7人が増える場合があるというお話がありました。難しいことですが、やはり児童数、クラス数というのは、とても大事なことであることがわかりいただけたと思います。ご質問はございますでしょうか。これについても、最後にまたご質問があればお伺いいたしますので、先に進んでいきたいと思っております。それでは続いて部活動の状況について事務局より説明をお願いします。

・庶務課亘主査

それでは、中学校の部活動の状況について説明させていただきます。資料の4ページをご覧ください。4ページが運動部、5ページが文化部の状況となっております。前回の会議で中学校における部活動の状況についてご意見が

出ましたので、今回、平成28年5月現在の各中学校の部活動の資料をご用意させていただきました。現時点では、三年生が引退しているため、一、二年生の合計が現在の部員数となっております。この中で運動部においては、第一中学校のサッカー部と剣道部が残念ながら平成29年度から入部募集をしないこととなっております。5ページの文化部においては、飯岡中学校の国際文化部が平成29年度から入部募集しないこととなりました。現在の中学校の部活動の状況ということで報告させていただきました。簡単ではございますが以上となります。

・伊藤会長

ありがとうございました。部活動の状況ですが、更になくなってしまいう部活動があるということで残念に思います。検討事項として一通り事務局より説明がありましたが、これより検討のための意見交換を行いたいと思います。ご意見ございましたらお願いいたします。それでは、3分ほど時間を取りたいと思いますので、これまでの資料を振り返りながら、お隣の委員とお話をしてもらっても結構ですので、わかりづらかった点であるとか、伺ってみたいこと等も含めて意見交換をお願いしたいと思います。

・委員

よろしいですか。部活動の状況についてですが、今回の資料に各学年の部員数が載っていますが、各学校、生徒全員が参加となっているのでしょうか。全員参加ではないのであれば、全体の何パーセントが部活に入っているのか教えてほしいです。

・伊藤会長

事務局、いかがでしょうか。全校生徒数に対する入部している生徒の割合ですね。

・庶務課亘主査

申し訳ございません。全体の何パーセントの生徒が部活動に参加しているかの集計まではしておりませんでしたので、次回会議までに取りまとめ、ご報告させていただきたいと思います。中学校の校長先生もお二方いらっしゃいますので、もしわかれば状況を教えていただきたいのですが、いかがでしょうか。

・伊藤会長

それでは、中学校の先生お二方、どうでしょうか。

・委員

飯岡中学校についてですが、生徒数245名で5月1日時点では入部していなかった生徒は、様々な事情がありまして2名おります。ですので99パーセントが入部しているという状況です。

・伊藤会長

そうすると、各部の人数と全体の245名を比較していただければ、全体のどれだけがどの部活に入っているということがわかりますね。第二中学校ではどうでしょうか。

・委員

第二中学校についてですが、5月現在では804名でしたので、電卓を持っていないので人数がすぐには出せませんが、この資料の運動部と文化部の部員数を足していただければと思います。(部員数715名)全員加入制は取っておりませんので、部活に入っていない生徒も何人かおります。それから野球のクラブチームですとか、学校の部活には入らずにそちらで運動する生徒もいますので、足していただければわかりますが、おおむね9割前後になるのではと思われます。

・伊藤会長

ありがとうございました。全校生徒数がわかりますので、それと比較していただければと思います。他にはいかがですか。

・委員

中学校でのクラス単位でいいますと、先生方も4学級が良いという回答が出ていますが、かといって子供たちを増やすことは現実的にいって無理なことだと思います。前回の会議でも言いましたが、第一中学校と第二中学校の距離ですが、1km満たない距離にあって片方では一学年2クラス、片方は7クラス、8クラス、この辺りを何らかの形で線引きをして、一中の方に生徒を行かせるという形にはできないのかなど。今そういった線引きがどうなっているのか知りたいです。

・伊藤会長

学校間でのアンバランスがあるというご意見ですが、適正規模に関し、アンケートで出てきた4学級程度が良いのではということについては、ご意見はいかがですか。

・委員

妥当だと思います。

・伊藤会長

第一中学校と第二中学校の学区の線引きについては、適正規模について検討した先の話になると思いますが、事務局、これについてはいかがでしょうか。

・庶務課亘主査

はい。今回の会議のテーマが学校の適正規模であるため、まず適正規模でどのぐらいの学校規模が適正なのか決めていただき、その上で次の段階である適正配置について検討いただく予定でありますので、今回の会議ではご用意しませんでした。まず適正だとする規模が決まらなければ、どこで線引きをとるという検討にも入っていけないと思いますので、前回会議においても第一中学校、第二中学校の学区割りについてお話がありましたが、今回、適正規模についての考え方が決まれば、次回会議では第一中学校、第二中学校だけではなく、市内全体の学区図等の資料をご用意して検討いただく予定でありますので、よろしく申し上げます。

・伊藤会長

そうしますと、中学校、小学校それぞれどのぐらいの規模が望ましいのか決めていただいて、その次の段階として、委員から今お話があったように学区の見直しやいろいろなアイデアが出てくるとと思いますが、それについては、適正規模について意見が一致した上で、次回以降になるのかなと考えますが、委員はそれでよろしいですか。

・委員

はい。いいです。

・伊藤会長

ありがとうございます。それでは先生方へのアンケートにより、中学校では12から18学級が望ましいという結果が示された訳ですが、この規模についてはご意見いかがでしょうか。現実にはそうならないし、そうすることは難しいかもしれないが、できればこれぐらいの学級数であれば学校も指導がしやすく、子どもたちの社会性を養うためにも良いのではないかとということです。

では、皆さんにお考えいただく間に、アンケートに答えた側の立場として、校長先生お二方に、このアンケート結果へのご意見を伺いたいと思います。例えば小規模校の場合、苦しい中でもその良さを生かしているという現状があると思いますが、実はこのぐらいの人数がいたほうが望ましい等、率直なご意見を伺えればと思います。委員いかがでしょうか。

・委員

飯岡中学校についてですが、前回会議にて本校のいわゆる小規模校の課題として8点ほど挙げさせていただきました。校長個人としては、概ね各学年4クラス、生徒数300人程度が適正かなと考えていましたが、今回のアンケート結果で、学校現場の先生方についてもほぼ同じような考えで、一学年4学級から6学級が望ましいとした回答が91パーセントを占め、同様の考えを持っていることがわかりました。設問の5にもありますように、適正だと感じる1学級の人数が24人～29人ということで、ほぼ私が適正だと感じている人数とほぼ同じ結果となりました。この考えは、国の標準学級数云々について縛られることなく、あくまで現場の実態を踏まえて適正だと感じた人数であり、それがたまたま国の基準と同じになったということで、教育関係者はどのように考えているのか、再確認させていただいた次第です。

・伊藤会長

ありがとうございました。続いて、委員はどうでしょうか。

・委員

第二中学校についてですが、7ページのアンケートの考察で、当校へのアンケート結果だけを取り出しグラフにさせていただいております。やはり本校の教職員も現在の規模が大き過ぎると感じているということがわかりました。我々教職員は異動があります。異動で第二中学校に来ますと、まず人の多さに驚きます。それから学校を運営していくための小回りが利かないといえますか、人が多い、生徒が多いところでの第二中学校として同一歩調で進んでいくことに時間がかかっているのが事実であります。このアンケートを見て、単純に第二中学校は大き過ぎると教職員も感じているのがわかりました。ですので、それが適正な学校規模として選んだ結果として出ているのだと思います。適正規模として選んだ理由についても前段において述べられていますが、同様な意見で率直なところも明確に感じ取れました。

・伊藤会長

ありがとうございました。アンケートに戻っていただくと、アンケート結果から一学年4学級ぐらいが良いのではないかと、また6学級ぐらいが良いのではないかとという回答が多かったことから、教職員としては学校規模が12から18学級が一番指導しやすい規模なのではないかということが読みとれると思います。大規模校といわれる第二中学校においても同様であり、あまり大きすぎても不都合があるということですね。やはり12から18学級が適正なのではないかということがまとめられていると思います。理由を見てみますと、このぐらいの規模があれば、いろいろな人間関係に配慮した学級編制ができる。それと一定の教職員が確保されるので、バランスのとれた教職員配置ができ、

臨免指導等の解消が実現する。そして複数の学級があれば学級同士が切磋琢磨する環境を作ることができるということが挙げられました。また1学級の人数としては、19人から23人、24人から29人が適正であるとの回答が多く、それぞれ理由も先ほど説明いただきました。そうしますと、本委員会として、この12から18学級という規模についてどう考えるのか。あくまで現場では12から18学級が望ましいとの結果がでました。それがたまたま国の基準とも合致しているということです。そして現状ではこの規模より小さい規模の学校もあれば、大きい規模の学校もありますが、望ましい学校規模というものが決まりましたら、先ほど委員からも話がありましたように、学区の見直しやいろいろなことを考えていかなければならないと思います。その第一段階としての学校規模について、そろそろまとめに入りたいと思いますが、いかがでしょうか。

・委員

私は、今のまとめていただいたお話で、我々が考える望ましい学級数が適正であるというとらえ方でよろしいのではないかと思います。先生方のアンケート結果も同様の方向性を持っております。ただ、現実がどうかということは、この次の問題です。あくまでも適正であろうと我々が考える規模として、このアンケート結果は、非常に的確にその成果を現していると考えます。

・伊藤会長

ありがとうございます。それではアンケート結果に基づき、現場の委員からも説明をいただき、皆様からも意見をいただきました。本委員会として、中学校における学校の適正規模は12学級から18学級が望ましいということとまとめさせていただいてよろしいでしょうか。そしてこれから先のことにつきましては先ほどの委員からいただいたようなご意見を皆様お一人お一人からアイデアなどいただきながら進めていければと思います。よろしくお願ひします。ここで次の検討事項に入る前に休憩を取りたいと思います。

(10分間休憩)

・伊藤会長

それでは、会議を再開させていただきます。
検討事項の(3)小学校の適正規模についての ア 学校の適正規模に関するアンケート結果について事務局より説明をお願いします。

・学校教育課橋村主幹(指導主事)

それでは、小学校におけるアンケート結果について説明させていただきます。

1 ページをご覧ください。設問 1 から 3 は、小学校における適正な学校について設問を作成しております。なお小学校の標準学級数も中学校と同様、12 から 18 学級とされております。最初に小学校の教職員が、一学年の適正な学級数について、どのように感じているのかを聞いてみました。一番多かったのは、一学年 2 学級で、全体の 71% の教職員が適正だと感じていることがわかりました。一学年 3 学級の標準学級数となる選択肢を選んだ方も含めれば、全体の 98% になります。1 学級、4 学級、5 学級以上を選択した方は、7 名と少数ではございますが、選択した理由を見ますと、無視すべき意見ではないと思えますので読み上げます。1 学級を選んだ方の理由ですが、「中学校はともかく、小学校は地域の中にあり、子どもたちが徒歩で通学できる範囲にあってほしい。適正規模の問題よりもそのことを優先したい。」とあります。このような意見も決して無視すべき意見ではないと感じております。2 ページをご覧ください。一学年 2 学級、3 学級を選んだ方々に、9 つの選択肢の中から特に共感する理由を 3 つ選んでいただきました。選択した理由として多かったものの一つ目が「様々な人間関係に配慮した学級編制ができるから」、二つ目が「一定の教職員数が確保され、バランスがとれた教職員配置が実現するから」、三つ目は、中学校と違いまして「クラス替えを契機として、児童が意欲を新たにすることができるから」の 3 つです。単学級の問題として人間関係が固定化しやすく、一度問題が生じるとそれを解消することが難しいということがあります。これを解消するためにも、定期的にクラス替えが可能な複数学級を望んでいると推察できます。また、ある程度人数が確保されることにより、ベテランから若手まで幅広い年齢層の人材が確保できること、また様々な専門性をもった教員を確保できることも学校が活性化するために大切な要因だと考えていることがわかります。続いて、設問 5、6 の 1 学級の人数は、何人ぐらいが適正だと感じているかについてですが、結果は 2、3 ページに掲載されております。まず 2 ページの表及びグラフをご覧ください。一番多かったのは 19 から 23 人で、全体の 61% を占めています。選択した理由については、3 ページに掲載してございます。様々な理由がありますが、こちらも中学校と同様「教師の目が届きやすく、子ども達の人間関係の多様性が保障され、様々な活動を行うことができる規模」が適正な学級の規模であり、それが 19 人から 23 人だと感じていることがわかります。

4 ページをご覧ください。こちらには先ほどの中学校と同じく一学年の学級数の違いによる 1 学級の人数の範囲が書かれておりますが、同じく学級数が増えると 1 学級の最少ラインが上がってくるのがおわかりになるかと思えます。多くの教職員が適正だと感じた一学年 2 学級を見ても、最少のラインが 19 人ぐらいということがわかります。先生方は 1 学級の適正な人数、そして一学年の適正な学級数のことを考えまして、一学年 2 学級が適正であり、そして 1 学級の人数はその 2 学級の最少ラインである 19 人より少しだけ多い人数が適正だと感じていると考察できます。以上で簡単ではございますが、小学

校における結果についての説明を終わりにいたします。

・伊藤会長

ありがとうございました。小学校のアンケート結果について説明がありましたが、質問がございましたらお願いいたします。前回の会議でも、小規模な学校については、きめ細かな指導が可能であるため、小学校については小規模でも良いのではないかとの意見もあり、その上でこのアンケートをとっていただきましたが、結果としては、クラス替えができること、一定の教職員数の確保によりバランスのとれた教員配置ができること等の理由により、一学年2学級から3学級、全校で12から18学級が望ましいと、現場の教職員は感じていることがわかります。ただ先ほど事務局からも説明がありましたが、小規模校の良さについても決して無視できないことであると思います。これより意見交換に入りたいと思いますが、ご質問、ご意見等あればお願いいたします。小学校にお子さんをお持ちの保護者の方、どなたかご意見をお願いできますか。

・委員

私のところでは小学校に娘がおります。中学校にも娘がいますが、保護者の考える適正と先生方が考える適正というのが非常に近いものであると実感として感じたところです。もしかしたら先生達が考える適正規模の方がもう少し大きな規模になるのではと思っていたので、この結果は保護者としては、とてもほっとするものです。今後、少子化が進むことは皆さんもよく知っていることだと思います。子供たちが減ってきている。財政的なこともある。箱物を減らしていかなければならない。隣の銚子市の案件も皆さん知っている。では旭市はどうか。学校を統廃合するものと薄々、気がついていっていると思います。そこで適正規模については理解している。しかし自分の地区の学校がそういった対象になったらどうかということ、やはり嫌なんです。そこをどうするかということが一番の問題で、先ほどの学区のことも含めてここから先のことが一番大変になるのではないかと思います。旭市は合併しましたが、箱物をまだ整理できていない状況の中で、学校というのは一番後に手を付けるべきところを、今こうして検討するわけですから、当然それに対する反発も大きなものがあると思われま。実際、保護者の間でも話が出ていまして、鶴巻小学校、滝郷小学校の保護者さんと接する機会も多いのですが、一学年10人前後しかいない学級の保護者さんたちは非常に不安で、こういう委員会があることもご存知ですし、すごく気にされています。すみません、話がまとまりませんが、適正規模ということに関しては、このアンケート結果通りでよろしいと思います。以上です。

・伊藤会長

ありがとうございます。適正規模ということに関しては、教職員のアンケート結果と保護者の方々の考えは、とても近いものではないかということです。ですが、その適正規模を踏まえ、どうするかとなると、自分のところが実際に該当校になるのは困ると、どなたも考えるのではないかというご意見であったと思います。本当にこれから先が大変だと思いますが、もっとそういったご意見をたくさんいただいていた方がこの先のためにも良いと思いますので、是非皆さん、お願いいたします。ではその間に学校関係の委員さんにお話を伺いたいと思います。よろしく申し上げます。

・委員

中和小学校ですが、前回の会議で小規模校の立場から、学校の状況、また課題が課題とならないように工夫した取り組みについてご紹介させていただきました。実際のところは、やはり少人数ならではの苦しいところがあります。アンケートのとおり、私も個人的には学級編制ができるという良さは大事だなと思います。理由についてもここに書かれておりますが、自分も職員と同じような気持ちであります。以上です。

・委員

干潟小学校ですが、本校は一学年を除いて2学級なので、前回の会議でもお話をいただきましたが、ある程度の活気もありますし、職員もやりやすいと感じていると思っております。このアンケート結果から中央小学校のように現在4学級ある学校においても、アンケートでは4学級を選んだ人が1人だけですので、やはり2、3学級が良いと感じているのであろうし、小規模校となる学校は多くあると思いますが、1学級を選んだ人は5人しかいないので、やはり小規模校も大規模校も関係なく、2、3学級が適当であると感じることがわかりました。それから1学級の人数については、やはり発達段階があり中学校は29人、小学校は少し少ない23人というのも納得のできる結果であると感じています。以上です。

・伊藤会長

ありがとうございます。他にご意見、ございませんか。

・委員

私は大規模校にいた経験がありますが、一学年12、13学級でした。同時に銚子の小規模校、具体的に言いますと椎柴小学校にいたことがあります。当時自分がいたころは、2学級ある学年が3学年ほどしかなく、それから分校もありまして、1年から4年までで25名程度でした。分校では4学級でしたが、1人の増置教員が充てられ4学級全て担任制をとることができまし

た。そこで何が小規模校での良いところなのかというと、今は長山分校は無くなりましたが、子どもたちとの運動会であったり、そこにあった全ての行事が無くなってしまったのが非常に寂しいことであると感じております。長山分校は滝郷小学校のすぐ近所から本校まで7 kmほど通学距離がある子もいたわけですが、分校という名称を嫌うお母さん方がいらして、本校のほうへ住所移転してしまうわけです。住所移転自体は簡単で、実際に土地が無くても移転できてしまうわけです。自分がいた最後の頃はそういう状況でありました。そして自分が異動して2年後に閉校となりました。学校は、特に小学校区は、子どもたちを通してのお母さん方の連携の場であり、いろいろな友達関係もできて地域の繋がりを育む場であります。ですので、住みやすい旭市をつくるために学校というのは大切なものであると感じております。また長山分校は、形としては4学級あったわけですが、規模も小さくクラス替えもできませんが、自分の子どもがいたら長山分校へ通わせたいぐらい、兄弟のように育っていける分校でした。20人前後の子どもたちが兄弟のような形でふれあい、きめ細やかな指導ができた。そこではいじめなど見られない状況でした。同学年ではありませんが兄弟のような切磋琢磨がありました。学力的にも本校へ来てても大きな問題はありませんでした。やはり文化をつくるのは小学校区ではないかと。お母さん方のそこでの付き合いが後々発展していく部分もありますし、学校の運営面だけでは考えられない部分ではないかと思い、違う視点から述べさせていただきました。

・委員

私は地域住民の立場から話をさせていただきます。私は鶴巻小学校の近くに住んでおります。鶴巻小学校は旭市で唯一、山の上にある学校です。震災時に津波の被害がありましたが、学校の周りが車で一杯になりました。飯岡方面や旭方面から、また銚子方面や茨城方面からも来ていました。本当に避難場所として良いところであったのかなと感じます。そういう面も踏まえて検討いただきたいと思います。

・伊藤会長

ありがとうございました。地域における学校の役割ということで、小規模校であろうが大規模校であろうが、地域の中に学校があるということは、それ相応の意味があるということです。学校は災害時の避難場所としての役割も持っているということです。せっかくですので、地域の中に1校はある、数多くあるのが小学校になるわけですが、それらに関連してご意見があればお願いします。ございませんか。

先ほど小規模校ならではの良さについても、委員から良いお話を聞かせていただきました。しかし、学校は社会性を養う場でもあり、家庭での教育とは違い大勢の中で子どもが生きていく術を身に着けていく場でもありますので、そ

ういった面からも考えていかなければいけないと思います。アンケート結果からは12から18学級、一学年2から3学級でクラス替えができる規模が適正ではないかという意見でした。先ほどからも話が出ていますが、これから先のことはとても大きな問題です。本日の会議の中でいろいろご意見もいただき、現状としてはいろいろありますが、子どもたちのことを考え、小学校の適正な学校規模は、この12から18学級ということで皆さんどうでしょうか。聞いていただいている方が多いようですが、小学校においても、適正な学校規模は12から18学級ということでよろしいでしょうか。

- ・委員

異議無し

- ・伊藤会長

それでは、今後必要があればその都度修正していきますが、今回の会議における小学校の適正規模については、12学級から18学級ということでまとめさせていただきます。

また付け加えさせていただきますが、学級を編制する上では学級編制基準、教員の配置には定員配置基準等の基準というものがございます。会議で望ましいと思ったことでも、基準に反して行うということとはできないと思いますので、それがこれから工夫していかなければならない課題でもあると思います。今後の会議におきましても、皆さんから頂いた意見を検討材料として活用し、進めて行きたいと思います。

それでは本日の検討事項についてはこれで終らせていただきます。次回会議ですが7月開催予定となっております。次回のテーマは学校の適正配置について更に検討を深めていくことになると思います。最後に事務局から次回の日程、テーマについての確認をお願いします。

- ・庶務課亘主査

事務局からの連絡になります。先ほどもご報告させていただきましたが、本日の検討で学校規模として12から18学級が望ましいということで、それを次回会議の検討事項である適正配置で現状の旭市に当てはめて、ご検討いただきたいと考えております。次回会議では、適正配置をテーマとしますので、現在の学区図等の資料もご用意してご検討いただく予定です。また次回開催時期が29年7月予定で、期間が空いてしまうため、早ければ6月末頃に開催できればと考えております。日程を調整しまして、ご連絡差し上げたいと思います。よろしく申し上げます。以上です。

・委員

一点要望があります。次回から大変になると思いますが、例えばですが、今回の資料の1ページにありますように、香取市では小学校についてはクラス替えが可能な規模が適正とありますが、現実には平成29年度から旧山田町は5校が1校になります。東庄町においても確か4校の小学校が平成32年で1校、大栄町も1校、神崎町もそうだと思います。理想であるはずなのに、現実には地域に学校が無くなり学区編制をし直さなければならない。銚子においてもオープンにされている部分では中学校は3校ではなく2校にしなければならないという議論が進んでいる。小学校についても、13校ある小学校が、猿田小学校が無くなり12校になって、それが10校に編成され、やがて7校になるだろうというシミュレーションまで出ている。そうした時、望ましい学級数がこれなのに、なぜそうせざるを得なかったのかという部分、そういった資料も是非提供していただきたい。教育委員会同士でもそういった話が聞けるのではないかと思います。全てが明らかになるとは思いませんし、予想できる部分もあるわけですが、財政的にそうならざるを得なかったのか、それとも地域に残したかったが、結果として残せなかったのか。というのも、自分が山田町の八都第二小学校に勤務していた時、八都小学校も昔は分校であったものが独立して30周年の祝いの行事を地域の方々と盛大に行っていましたが、それが廃校となってしまいました。これは人口の減少であるから仕方がないということも言えるわけですが、望ましい学校規模、学級規模というものを持ちながらも、そうせざるを得なかったという部分も探っていただいて資料提供をお願いできたらと思います。非常に難しいことではあると思いますが、教育委員会同士聞ける部分について情報提供いただけたら皆さんも、これから旭市はどうしていったら良いのかというところの一つのヒントになるのではないかと思いますので、よろしく願います。

・伊藤会長

近隣自治体で、なぜそうせざるを得なかったか等の話が聞ければとのことですね。可能な限りでよろしいのでお願いしたいと思います。その他にはございますか。では長らくお疲れ様でした。これで閉会とさせていただきます。